



昔 誇り高き「優良企業」
就職人気ナンバーワン
自由闊達な社風

裁判したからと

違 法 報 復

「強制退職」と違法な報復をやめよ

東京海上日動

TOKIO
MARINE
NICHIDO

いま

儲けるために従業員切捨て
みせかけのCSRは崩壊
逆らう者は許さない

私たちは東京海上日動の一方的な外勤社員制度廃止に立ち向かいたたかっています
違法な攻撃をやめさせるため
ご支援をお願いします。

全日本損害保険労働組合

全損保日動外勤支部

中央区新富 1-6-1 京橋第 5 長岡ビル 4 階 03-3551-7131

ホームページ 全損保 <http://www.niu.or.jp/index.html>

全損保日動外勤支部 <http://www.geocities.jp/nichidogaikin/>



CSR崩壊 とんでもない冷酷、違法な報復

外勤社員制度廃止とは

外勤社員とは、保険の募集を仕事にする正社員で、現在 900 名が働いています。制度廃止とは、外勤社員を辞めて代理店となるか、賃金半減もある「職種変更」を迫る、「強制退職」のスキームです。売上げ 1 兆 8833 億円の企業の、利益のための雇用破壊。これが許されれば労働者の首はいくつあっても足りません。

35人はなぜ提訴したか

雇用にかかわる制度廃止問題。労働法上、労使で話し合うことが大前提です。しかし、会社は、経営の決定だと、全損保日勤外勤支部の主張に耳を貸しませんでした。そして、2007年7月の制度廃止時には、廃止を認めなくても配置転換を行い、逆らえば「解雇を検討する」と明言。配置転換に応じれば外勤社員にとって何より大事なお客様が切り離され、それがいやなら解雇。その時を待っているのは手遅れになります。そのため、組合員のうち 35 名が、提訴に踏み切りました。

裁判に報復 あまりにもひどい声

あろうことか、東京海上日動は、裁判をしたことに報復してきました。多数派労組はじめ全外勤社員が対象の「代理店転進」の支援(支援金、営業支援策など)を、全損保組合員には行わないというのです。従業員から「これはやりすぎだ」、「あまりにひどい」という声があがっています。

違法承知の明白な不当労働行為

裁判に報復するなど、国民の基本的な権利を否定することです。しかも、「代理店転進」について団体交渉を拒否する文書を送りつけてきました。全損保組合員の差別、団交拒否という、あまりにも明白な不当労働行為を堂々という異様さです。

世界を裏切るグローバルコンパクト違反

国連グローバルコンパクトとは、国連が人権、労働基準、環境など企業行動の 10 の原則を提唱するものです。昨年、東京海上日動も参加し、行動原則に即した CSR 活動を実践すると宣言しています。しかし、一連の対応は次の原則(4つも!)に明確に違反する大問題です。

- 原則 1** 企業はその影響が及ぶ範囲で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し尊重する
- 原則 2** 人権侵害に加担しない
- 原則 3** 組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする
- 原則 6** 雇用と職業に関する差別を撤廃する